つばめ農園おひさま便り

26

安渓貴子・安渓遊地

昔の暮らしを楽しむ子どもたち

山口市北部の阿東では、厳しい寒さの日はあっても、大雪で営農ソーラーが倒れた去年に比べれば、一晩で溶ける程度の雪しか今のところ降っていません。

陽射しのあたたかなお正月に、県庁そばの街中からとても元気な男の子二人と、小さな女の子がご両親に伴われて、阿東つばめ農園のおひさま交流館に遊びにやってきました。はじめのうちこそ、持ってきたシャボン玉遊びなどしていましたが、すぐにあたりのあぜ道を走り回ったり、水のたまった溝をぴょんと越えたり、氷が張っているのをみつけたらさっそく持ち出して割ってみたり……。きけば男の子の一人は、ご近所の子だというのです。

田舎暮らしにあこがれて、自分で種子をとる小さな農業なども始めているというご家族を歓迎して、薪ストーブを焚いて、いろいろな話をしながら、石臼をセットし、収穫してある蕎麦の実を挽いてもらおうと思いつきました。

上下合わせて50キロ近い大きな石臼で、私たちも蕎麦を挽くのは初めてです。男の子二人で力を合わせて回すと、殻が外れてちゃんと粉になるようです。目の細かい篩でふるって、そば殻を分け、まだ挽けていない荒いものは、また臼に戻します。そのうちに、女の子まで参入して、子どもたちだけでやれると言い出しました。用意した蕎麦の実をみんな挽いてしまって、「もっとないのー?」と催促されるぐらい、子どもたちは石臼にはまっています。お父さんは、なかなかやらせてもらえず、お母さんは危なくないようにちゃんと見ているけれど、子どもたちのやりたいように自由にのびのびとやらせている姿が印象に残りました。

できあがった蕎麦粉をちゃわんに入れて、薪ストーブの上のやかんからお湯を注いで、そばがきを作って試食した子どもた

石臼を回して蕎麦粉づくりに熱中する子どもたち

ちは、その素朴な味が気に入ったようです。自宅も薪ストーブだという、ご近所の男の子は、そば殻で枕をつくりたい、といって持ち帰りました。

いつもは静まり返っている田舎道を元気な子どもたちが走り回るだけでもうれしいのに、その子らが、自然のものを見つけて楽しく遊び、昔の暮らしで役立ってきた道具を使いこなす。なんとすばらしいことでしょう。空き家はたくさんあるし、空いている農地もあるのだから、移住大歓迎ですよー、といって一回目の交流会は盛り上がりました。

畑仕事や田んぼの準備が始まったら、こんどはどろんこ遊びもできるから、またいらっしゃいね！

菌ちゃん先生の畑づくり

前号でお知らせした二〇二一年一二月四日に山口市で開かれた、田んぼや畑でのびのび育つ子どもたちを目標のひとつにした「やまぐち食育フォーラム」。そこでお会いした、菌ちゃん先生こと吉田俊道さん（〈株〉菌ちゃんファーム代表取締役）は、あたりの空間を生き生きとしたエネルギーでみたすようなパワフルなお方でした。

いきなり「みなさーん！　今の、国光美佳さん（子どもの心と健康を守る会代表）や、前島由美さん（ゆめの森こども園代表）の発表聞いてどう思われましたか？　わずかな数の子どもがたまたま食事を変えたら調子がよくなった、という報告でしたけれど、そんなことで一般的に通用するわけないでしょう？　そう思われた方は手を上げてください。」勢いに押されて数人が手を挙げました。

「そう。それが専門家の見方なんです。そして、農薬なしに農業ができるはずがない、というのが専門家の見方なんです。でもそれは間違っていたんです。」

大学院で植物生理を学んで就職した長崎県の農業改良普及員を三六歳のときにやめて、農業を始めた菌ちゃん先生は、有機農業に挑戦。草は取っても取っても生えてくるし、虫がやってきてキャベツはすだれのように食われました。モグラが穴をあけるので、アスパラガスの根がやられて全滅といった経験をしました。食べてみると虫が集まる野菜がえぐく、虫がこない野菜が甘かったことから、気づきがやってきました。草も虫もモグラも敵にしない、地上においた枯れ草に糸状菌（カビ）を繁殖させるという農法にたどり着いて、今では、虫がこないどころか、モグラは二六センチも下を潜るようになって、モグラのおかげで畑に空気が入ってますます根が伸び広がるようになりました。虫は腐敗した有機物を食べるから、モグラは腐敗したところにいるミミズなどの虫がほしくて潜っていたのだからといいます。具体的には、ススキややセイタカアワダチソウなどの固い草や、籾殻などを土の上にのせて、二、三カ月マルチをかけて雨にあてないようにしてやるだけです。農業の常識としては、炭素分が多くて圧倒的に窒素分が少ない状態ですから、窒素飢餓という状態で、作物はほとんど育たないはずです。ところが、菌ちゃんふぁーむでは、それでも育っています。それは、糸状菌につづいて、窒素固定菌が働いて野菜の根に肥料分を渡してくれるおかげで、野菜がよく育つというのです。

女優の柴咲コウさんが、北海道で菌ちゃん先生の指導をうけながら農業にとりくんでいるビデオなどをみながら、うちも、これまで利用してこなかった、荒れ地のススキを刈りはじめました。畑にもっていかないうちに、雪にふられたりしていますが、草をたっぷり畑の上においてやることの効果を見ていきたいと思っています。（つづく）

（あんけいたかこ・あんけいゆうじ）
a@ankei.jp
http://ankei.jp